

ナシ園における黄色粘着トラップによる チャノキイロアザミウマの捕獲消長

1 情報・成果の内容

(1) 背景・目的

多くの作物を加害するチャノキイロアザミウマ（以下、チャノキとする）は、果樹の重要な防除対象害虫となっている。本種は若葉を中心に加害し、国内ではナシの新梢被害が顕在化した事例がある。本県においても、‘新甘泉’等の新品種において、本種被害が確認されているが、その発生実態は明らかではない。

そこで、本県のナシ園においてチャノキの発生実態を把握するため、栽培品種の異なるナシ園において、その捕獲消長を調査した。

(2) 情報・成果の要約

- 1) ナシ園における黄色粘着トラップによるチャノキの捕獲消長は、調査園における栽培品種で異なる。
- 2) 捕獲消長は、摘心作業を行う‘新甘泉’等の品種では、7月以降も伸長する新梢が一定数みられ、このため6月中旬、7月下旬～8月上旬に捕獲数が増加する二山型となる。
- 3) 摘心作業を行わない‘二十世紀’等の品種は、6月下旬～7月上旬に新梢伸長が停止するため、6月中旬に捕獲数が増加する一山型となる。

2 試験成果の概要

- (1) ナシ園において、チャノキは若い組織を加害するため、新梢先端葉や硬化前の茎、摘心後に再伸長した若い組織を中心に寄生する様子が観察された（図1、2）。
- (2) チャノキの捕獲は、4～10月まで確認でき、赤ナシを中心とした‘新甘泉’等の混植園（ほ場Ⅰ）では、6月第3～4半旬、7月第6半旬～8月第2半旬、青ナシを中心とした‘ゴールド二十世紀’等の混植園（ほ場Ⅱ）では、6月第3～4半旬に捕獲数が増加した（図3）。
- (3) 数品種で新梢先端葉のチャノキ寄生数を観察した結果、その寄生数は新梢伸長が停止すると減少した。また、‘おさゴールド’と‘新甘泉’について、8月に新梢伸長している割合（伸長新梢数/総新梢数×100）を比較したところ、後者が高かった（表1）。
- (4) 以上の結果、ナシ園における黄色粘着トラップによるチャノキの捕獲消長は、調査園における栽培品種で異なり、管理上摘心作業を実施する‘新甘泉’等の品種が栽培されているほ場では、7月以降もチャノキの発生量が多いと考えられた。



成虫 幼虫
図1 チャノキイロアザミウマ

表 新梢が伸長している新梢の割合^a (2012年)

品種	8月6日	8月27日
‘おさゴールド’	2.5 %	0 %
‘新甘泉’	4.8	11.6

^a 伸長している新梢数／調査新梢数×100



図2 チャノキイロアザミウマの被害

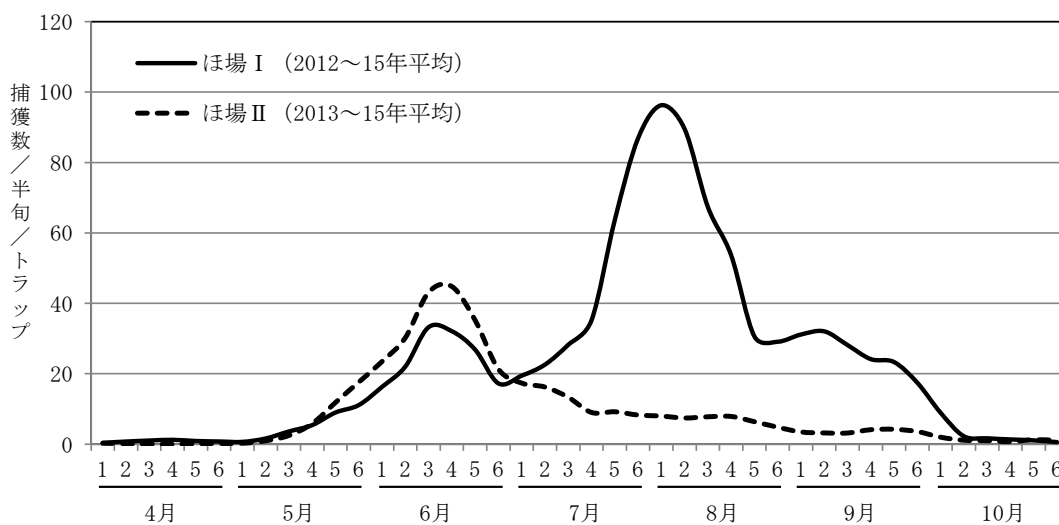


図3 黄色粘着トラップによるチャノキイロアザミウマ成虫の捕獲消長（移動平均）

移動平均：時系列データを平滑にし、消長の比較がしやすいように調査日を中心に前後、計3回の誘殺数を平均した

ほ場Ⅰは、赤ナシを中心とした‘新甘泉’等の混植園

ほ場Ⅱは、青ナシを中心とした‘ゴールド二十世紀’等の混植園

3 利用上の留意点

(1) チャノキイロアザミウマ成虫は年間6～7回発生する。

4 試験担当者

〔 環境研究室 主任研究員 中田 健
環境研究室 室 長 田中 篤 〕